

東山動植物園再生プラン

令和 7 年度から 11 年度まで
(第四期) の事業計画

令和 7 年 3 月
名古屋 市

令和 7 年度から 11 年度まで（第四期）の事業内容

（１）概要

再生プラン新基本計画の目標である「人と自然をつなぐ懸け橋へ」の実現に向け、開園 100 周年となる令和 18 年度を見据えた第四期は、重点テーマを「誰もが楽しめ何度でも訪れたくなる持続可能な動植物園」とする。動植物展示の魅力向上や来園者サービスの拡充により来園者の満足度の向上を図るほか、将来にわたって動植物園を魅力ある状態で運営し続けるため、環境保全の取り組みや施設の適切な維持管理も進める。そのため、次の 4 つの方針により再生プランを推進していく。

- ①動植物展示の魅力向上
- ②来園者サービス及び広報の充実
- ③環境教育・調査研究・種の保存の取り組みの充実
- ④持続可能な管理運営

(2) 主な事業内容

ア 動植物展示の魅力向上

将来を見据え東山動植物園で展示していく動物種及び植物種について、その導入時期、導入方法などを定めたコレクションプランを踏まえ、持続可能な動植物展示に向け、動植物の導入や繁殖に取り組む。加えて、アニマルウェルフェアに配慮した展示施設の整備や環境教育の充実により、動植物展示の魅力向上を図る。

(ア) アジアゾーン

a アジアの熱帯雨林エリア（コモドオオトカゲ・マレーバク）

インドネシアで特に希少とされているコモドオオトカゲやマレーバクなどを展示する新たな施設を整備し、コモドオオトカゲ等を導入する。

新施設では、動物の大きさや特有の行動等の生態を来園者が観察できるようにするとともに、実際の生息地であるインドネシアの環境や人との関係、文化的背景を体感・知る機会を提供する。



コモドオオトカゲの展示イメージ

b アジアの高地エリア（ユキヒョウ・マヌルネコ）

第三期で整備したレッサーパンダ舎とともに、ユキヒョウやマヌルネコなど、標高が高い地域に生息する動物の展示施設を引き続き整備する。

新施設では、希少動物であるユキヒョウとマヌルネコの繁殖を目指し、新たにユキヒョウ等を導入する。



ユキヒョウの展示イメージ

また、特有な環境に適応して進化した動物の身体能力や生態の観察に加え、生息地での人の生活を来園者が体感できる機会を提供する。

(イ) アフリカゾーン

a サバンナエリア（キリン・シマウマ・ライオン・カバなど）

キリンや、シマウマ、ライオンなどサバンナに生息する肉食・草食動物を展示する新たな施設を整備し、動物の群れとして展示できるよう、導入に向けた調整を行う。



サバンナエリアの展示イメージ

新施設では、サバンナの自然環境を再現するとともに、水辺に集う動物たちの姿や、エサとなる植物を食べ分ける草食動物の姿など、複数種の動物が生き生きと暮らす様子を、動物の世界に来園者が入り込んだかのように間近に観察できるよう展示することで、自然のすばらしさ、大切さを来園者が体験体感する機会を提供する。

また、群れで活動する動物の生態や行動について、パネルや原寸大模型などを使った環境解説展示を行うとともに、実際に動物を見ながら、スタッフによる解説を聞いて学べるガイドプログラムを充実させる。

b アフリカの森エリア（コビトカバ）

水中でのコビトカバの行動を観察できる展示施設を整備する。

新施設では、森の中に生息するコビトカバの生態や行動を紹介することで、サバンナに生息するカバとの違いや、森とサバンナのつながり、生息数が減少している要因を知る機会を提供する。

(ウ) 日本ゾーン（ツル・キジ）

日本に生息する鳥類を展示する施設を日本産動物エリアに整備し、タンチョウ等のツルやニホンキジを導入する。国内希少種かつ国内最大の野鳥であるタンチョウをはじめとする日本に生息する鳥類の姿を観察する機会を提供し、その大きさを実感してもらうとともに、かつては全国的に野生の姿を見ることができていたタンチョウがその数を減らした背景や、人との共存について考える機会を提供する。

(エ) 世界の植物と文化ゾーン

温室前館に引き続き、温室後館及び周辺の整備を行い、熱帯の雲霧林で着生する植物やアリと共生するアリ植物等を新たに導入し、展示の充実を図る。



温室後館のイメージ

新施設では、新たな技術を活用し、来園者が熱帯植物などの生き生きとした姿を体感できるとともに、地球の命を支える植物と動物・人とのつながりを知る機会を提供する。

(オ) 日本の里ゾーン

昭和31年に飛騨白川郷から東山動植物園へ移築した合掌造りの家を歴史文化的な価値のある建物として保存・整備する。引き続き自然と一体となって営まれてきた日本のくらしを広く市民に伝え、くらし体験等に活用する。

(カ) 既存展示の魅力向上

- ・既存の展示施設においても、動植物種の環境解説展示を充実させ、動植物に関する知識を広く知ることのできる機会を提供する。
- ・動物や植物を見ながら、園内スタッフによる解説を聞いて学べるガイドプログラムを充実させる。

イ 来園者サービス及び広報の充実

(ア) にぎわいの創出

- ・春まつりなど、四季に応じたにぎわいを創出するイベントを充実させるとともに、閑散期においてアニマルトーク等を充実させる。
- ・北園エリアに整備するアフリカゾーンの計画にあわせ、民間活力を導入した魅力ある飲食・物販施設の計画を策定する。また、民間活力導入済みのエリアにおいて、更なるにぎわい創出を図るため営業施設整備事業者と協議し、飲食・物販施設の追加設置を検討する。

- ・ 人気動物や公式マスコットキャラクター、フォトスポット、BGM等を活用し、動植物園らしい雰囲気高める。
- ・ 動植物への理解が深まり、楽しみが増す園内ガイドなどの市民ボランティア活動を引き続き進める。

（イ）快適性の向上

a 植栽・景観

緑にあふれ景観に優れた園内を形成し、来園者に憩いの場を提供するため、植栽や管理の質を高める。

b 休憩施設・広場

屋内展示施設や屋根付歩廊など、雨天や猛暑でも快適に観覧できる施設の充実を図り、観覧通路沿いのベンチや展示施設に隣接する広場など観覧途中での憩いの場を整備し、来園者が快適に過ごせる園内空間を提供する。

c トイレ

来園者の多様なニーズに対応できるようトイレの洋式化やバリアフリー化の整備を進める。

（ウ）利便性の向上

- ・ 園内情報の多言語対応やベビーカー貸し出し等のサービスの充実、キャッシュレス決済等に対応した駐車場精算機の導入等を図る。
- ・ 入園者が増加傾向にある状況を踏まえ、駐車可能台数の増加を図るための検討を行い、整備を進める。
- ・ 高低差のある広大な園内を来園者が快適に移動できるよう、既存のスカイビュートレインを園内移動施設として改修するとともに、駅の利便性の向上を図る。
- ・ 植物園内の電動カートについて、利用者のニーズを踏まえつつ引き続き運行していく。

(エ) 広報の充実

- ・ 広報媒体ごとの特徴を生かした効果的な広報に努めるとともに、流行に合ったSNS等を活用した広報を実施する。
- ・ 動植物やイベントに関する情報や、環境教育や種の保存に係る取り組みについて広く発信する。
- ・ 動画配信サービスなどの新たな広告媒体を活用した広報の効果を検証する。

ウ 環境教育・調査研究・種の保存

(ア) 環境教育

- ・ 生きた展示動植物と環境解説展示を活用し、環境教育を進める。
- ・ アニマルウェルフェアに配慮しながら、来園者の多様なニーズを取り入れ、環境教育プログラムを更新する。
- ・ 夏季や冬季に、屋内施設を活用した環境教育プログラムの拡充を図る。
- ・ 絶滅危惧種の生態や現状について、他園ほか幅広い団体等と連携して積極的に発信し、動植物を通して生息地域の文化などを知る機会を提供する。

(イ) 調査研究

- ・ 他園や大学等と連携し、動植物の基礎資料の収集や飼育・繁殖・栽培技術の向上、種の保存に関する研究を継続する。
- ・ 名古屋出身で日本初の理学博士である伊藤圭介の日記解読研究を継続するとともに、関連資料のデジタルアーカイブ化を進め、広く植物学における功績を発信する。

(ウ) 種の保存

- ・ 関係機関と連携し飼育繁殖技術の向上に努めるとともに、国内のみならず海外から希少動物を継続的に導入するための体制強化を行い、コレクションプランに定める動物を安定的に確保する。

- ・環境省の保護増殖事業に引き続き参画し、ツシマヤマネコやイタセンパラの生息域外保全に取り組む。
- ・東山の森に生息するオワリサンショウウオやホトケドジョウなどの希少種について、森づくり活動団体や生物多様性センターなどと協働しながら、保全活動に貢献する。
- ・海外も含めた生息地の保全活動に貢献するとともに、その情報を発信する。
- ・公益社団法人日本植物園協会が取り組む絶滅危惧植物の収集保全活動に参画し、植物多様性保全拠点園として、東海丘陵要素植物群（木本・草本類）や文化的・遺伝的な価値の高い品種群の保全を図る。

エ 持続可能な管理運営

（ア）環境保全への取り組み

- ・動植物の生息環境の保全につながる脱炭素化を進めるため、施設の熱源の再生可能エネルギーへの転換、クリーンエネルギーの導入、自然動物館をはじめとするエネルギー消費量の大きい施設における消費量削減に向けた改修等を行う。
- ・脱炭素化の意義や、東山動植物園での取り組みの成果・効果について、園内外に広く発信し、脱炭素社会の実現に貢献する。

（イ）財政基盤の確立

- ・企業等の社会貢献へのニーズに沿った寄附メニューの提案や、効果的な情報発信を行い、より多くの寄附や企業参画を獲得する。
- ・名古屋市東山動植物園基金の使途や効果を広く発信することで、更なる寄附・企業参画の獲得につなげる好循環を形成する。
- ・クラウドファンディングやキャッシュレス決済による寄附等、より寄附を集めやすい仕組みをつくる。

（３）東山の森づくり

次世代に身近な自然のすばらしさや大切さを伝えていけるよう、雑木林の健全な育成や湿地形成のための除伐・間伐などの保全・再生活動、環境学習や体験学習等を森づくり活動団体と連携して継続的に実施し、東山の森づくりを推進する。

（４）周辺地区の活性化、まちづくり

地域の企業・大学等と協力して一体感のある催事やおもてなしの演出を行うほか、環境教育プログラムの共催など、周辺地区と連携しながら、まちのにぎわいづくりや交流を促進する。

（５）再生プランの推進に要する事業費

近年の賃金や物価の高騰による影響等を踏まえ、想定全体事業費を約３５０億円から約４２０億円に増額し、来園者の更なる満足度向上を図る。

第四期における事業費は、様々な財源を確保しながら約１５０億円と想定している。

(6) 事業スケジュール案

事 項	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
動植物展示の魅力向上					
アジアゾーン (アジアの熱帯雨林エリア)	工 事				動物導入
アジアゾーン (アジアの高地エリア)	工 事		動物導入		
アフリカゾーン (サバンナエリア)	設 計				
	工 事				
アフリカゾーン (アフリカの森エリア)	設 計		工 事		
日本ゾーン (日本産動物エリア)	設 計	工 事	動物導入		
世界の植物と文化ゾーン	設 計		工 事		
日本の里ゾーン				設 計	工 事
来園者サービスの充実					
営業施設（北園）			調査・準備及び公募		
トイレ	設 計	工 事			設 計
駐車場				設 計	工 事
園内移動施設		設 計	工 事		
環境教育・調査研究・種の保存					
環境教育プログラムの 実施・更新等	実 施				
持続可能な管理運営					
脱炭素化の推進	実 施				

事 項	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度
東山の森づくり					
森づくりの推進					
	実 施				
周辺地区の活性化、まちづくり					
まちのにぎわいづくりの促進					
	実 施				

(7) 主な事業箇所図

